

いなさの風

令和元年7月発行
発行者 山田 隆敏
編集 伊那佐まち協
事務局広報

平成三十一年（令和元年）度

通常総会開催

4月27日、旧伊那佐幼稚園2階リズム室にて、ご来賓ご臨席のもと伊那佐地区まちづくり協議会平成31年度通常総会が開催されました。

議事は平成30年度に行った事業の報告とそれらの会計報告を。平成31年度の事業計画・収支予算等について意見交換がされました。

また役員交代と役員の担当変更についても協議されました。本年度から環境・防災・防犯部の会員に岡野吉成さん、浦田重博さん。子育て教育・福祉・健康部

の会員に、浦西勉さん、下川和さん、小松原博子さん、「アクティブセンターうだ」の皆さん。地域振興・産業・観光部の会員に向井誠二さん、生田優希さんが参加され、会計監事に森開三代治さんが新しく就任されました。

総会終了後には3つの部会に分かれ、部会委員同士の紹介と今後の打ち合わせについて各自で確認しました。
当協議会では、安らかな暮らしと魅力ある地域づくりをさらに推進できるように新規会員を随時募集いたします。皆様のご参加をお待ちしています。



新元号で 新年度、 始まりました。



5月1日、平成から令和に御代替わりしました。これに歩みを合わせるように伊那佐地区まちづくり協議会も動き出しました。

5月17日には、伊那佐文化センター道路周辺の美化活動として、植え込み等の草刈りを行いました。これは、年に2回行う予定の第1回目でした。

また、5月19日には、NPO法人「アクティブセンターうだ」が主催する「アクティブ祭り」に協力事業として参加しました。

なお、令和元年度の事業につきましても、そのつど回覧板などを利用して告知させていただきます。概要は次頁をご覧ください

環境・防災・防犯部会

- ◎旧伊那佐文化センター
道路周辺の美化活動
植え込み等の草刈り
年二回実施 五月十七日(済)八月(予定)
- ◎鳥獣害対策学習会
猟友会の会員協力による研修会
十二月・一月(予定)
- ◎詐欺等防止運動
桜井警察署と連携、
各家庭に注意喚起物の配布
八月・九月(予定)
- ◎伊那佐の里・山・川探索ファミリー事業
(調査)

子育て教育・福祉・健康部会

- ◎世代間交流会
高齢者を中心に子供たちと
の交流を図る
焼芋・餅つき・ゲーム等
十一月二四日(日)
- ◎健康体操・講演会
百歳体操等
健康で長生きを目指す
十月中旬(予定)

令和元年度の事業計画と実施予定日

地域振興・産業・観光部会

◎アクティブ祭り（協力事業）

NPO法人

アクティブセンターうだへの協力事業

五月十九日（済）

◎灯M a t e 2 0 1 9（未来への灯送り）

伊那佐地区の大人も子供たちも楽しめるイベントを実施

九月二十二日（日）

◎魅力発見事業（継続）「伊那佐の食」の開発

伊那佐の野菜を使った料理、パンの販売
伊那佐地区内でのイベントに出店

◎健幸ウォーク（実態調査）

事務局

◎広報

広報誌「いなさの風」の発行
年三回（七月・十一月・三月）

◎会員拡大（会員六〇名目標）

新規会員の募集・まち協認知度を上げる対策としてマスコットキャラクターの検討

◎ホームページの充実

内容の充実
年間・随時更新

伊那佐地区まちづくり協議会の会員を募集します！

皆様、自らのために、伊那佐のために、活動してみませんか？

伊那佐地区まちづくり協議会の目的

伊那佐地区の住民相互の交流と親睦を図り、共通の利益の増進、生活環境の保持・改善に努力し、文化・福祉の向上と豊かで住みやすい地域づくりに寄与することを目的とする。

『伊那佐の皆様が自ら気づき考え発言し、そして行動し、その喜びをお互いに共有する』ことを目指し、住民参加による主体的な地区を創り上げるため、協議会の会員（代議員）を募集します。

子育て世代の減少や過疎化など地域の共通の課題にいっしょに協働してくれる皆様のお力が必要です。

●応募資格

この地域にお住まいか、働いておられる個人および団体。年齢は問いませんが、女性の参加が少ないので、お気軽にご参加ください。

●応募方法

氏名・年齢・性別・住所・電話番号・関心のある分野（「環境・防犯・防災部会」「子育て教育・福祉・健康部会」「地域振興・産業・観光部会」のどれか）を明記

して左記のまちづくり委員に提出してください。



《問合せ・申込み先》

池上 錢塚政男
高塚 久我文昭
福西 大森邦夫
栗谷 生駒秀樹
石田 浦西 勉
比布 和田 榮
母里 奥田 博
三宮寺 岡野吉成
澤 横山三一
大貝 田中照己
山路 山田隆昭

《個人情報取扱について》
事務連絡のみ使用し、他の目的には一切使用しません。

イナサがまた吹く ～風 寄せる集落に生きる～

東日本大震災で津波にのまれ、暮らしのすべてを奪われた仙台市荒浜地区。かつてここは、海の幸と田畑の恵みが人々を潤した、半農半漁の集落だった。春、豊漁を呼ぶ南東の風をイナサと呼び、実りの秋、干し柿など冬の保存食作りに欠かせない西風をナライと呼んで、四季折々に吹く風と対話しながら生活を営んできた。こうした伝統の暮らしを復活させたいと、荒浜の人々は動き出す。漁船を取り戻して再び海に出る漁師、先祖伝来の畑が被災しても、土への愛着を忘れられない農家、互いに、収穫した海や田畑の恵みを「お裾分け」する姿がそこにあった。そしてそのつながりは、海沿いから町なかの仮設住宅に移っても変わることがなかった。番組では、被災直後からイナサの風が再び豊漁を告げる春までの一年間を取材。環境が変わっても変わることのない人々の絆、自然ともにある営み、海と向き合って生きる人々の姿を描く。